

ダイバーシティ・ インクルージョン推進センター

Newsletter

Vol.9

グランドデザインの目標達成に向けて

－新体制でスタートした今年度の活動報告と今後の展望

2014年4月に開設された「創価大学男女共同参画推進センター」は、2022年4月より、「ダイバーシティ・インクルージョン推進センター」へと名称を変え、本学のさらなる男女共同参画のあり方を検討し、多様性（ダイバーシティ）の時代になかった、多様な個性・能力が尊重されるキャンパスの実現に向けて新たな出発を切りました。センター長に教育学部・富岡比呂子教授が就任しました。

また、「男女共同参画推進センター運営委員会」も「ダイバーシティ・インクルージョン推進委員会」へと改組し、委員長に秋谷芳英副理事長、副委員長に小山内優副学長が就任しました。

ダイバーシティ・インクルージョン推進センターでは、「Soka University Grand Design 2021-2030」に掲げられた男女共同参画の取り組み（①女性教員比率20%を全学部において達成 ②女性職員比率40%の達成と維持 ③女性管理職比率の目標設定と達成）に基づく事業計画を推進するとともに、多様性に対応する視点を持って、本学が目指す多様な価値観が集まるキャンパスの実現を目指します。

新体制でスタートした本年は、本センターの役割を理解し有意義な事業展開を図っていくため、鈴木将史創価大学学長を迎え、秋谷委員長、富岡センター長、ダイバーシティ・インクルージョン推進センター員12名で2022年12月23日に懇談会を行い、現状の問題意識の共有と今後の展望について語り合いました。

懇談会では、はじめに本センターの3つの部会より、2022年度の活動状況の報告がありました。

小林孝次・ワークライフバランス支援部会長

2022度からの取り組みとして春学期に「学長と若手教員との懇談会」を行い、秋学期には「学長と女性教員との懇談会」を開催。また、教職員を対象に開催した「ランチタイムミーティング」では、所属や年代を越えて人間関係を築く場を提供し有意義な語らいができました。



木下聖子・次世代育成部会長

女性研究者の育成を目的として、学生を対象に「オープンカフェーロールモデルとの語らい」を開催し、また女性教員を対象に「女性教員サロン」を開催して参りました。また、女性教員サロンで女子大学院生へのサポートについて声が寄せられたことから、2022度より「女子大学院生サロン」を開催し、キャリア形成やライフイベントと研究活動の両立などを気軽に語り合える場を持ち、学生支援に努めて参りました。

西山道子・調査・広報・啓発部会長

各種イベント開催時にアンケートを実施、またホームページの充実に取り組んで参りました。啓発活動としては、春学期に昭和女子大学理事長顧問・鈴木雄二氏をお迎えして第10回講

演会を開催しました。各種イベントのアンケートの内容を分析し、今後のセンターの事業計画に反映していきたいと思います。

次に、富岡センター長から今後の抱負が語られました。

富岡センター長

男女共同参画推進センターの頃より検討を重ね準備を進めてきた、大学院博士後期課程に進学する女子学生を対象とした「創価大学女子大学院生フェローシップ制度」が、いよいよ2023年4月より運用開始となります。また、多様性に富むキャンパスの実現に向けて、今後は、ダイバーシティに関する授業、SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) 等に関連した支援などをテーマにワーキンググループを設置し、事業立案に臨んでいきたいと思っております。

続いて、鈴木学長・秋谷委員長とセンター員との間で次のような語らいが行われました。

センター員

本センターでの活動を通して、女性教職員の活躍を後押しするには、人員の増加や業務の効率化など組織的な改革が必須であると思います。また、ダイバーシティ・インクルージョンを本格的に推進するには明確なビジョンを組織内で共有すること、多様性を活かした適材適所の人事配置、マネジメント層・構成員の意識改革、一体感のある組織風土等が必要であるが、本センターが学内に効果的なインパクトを与えていくことの難しさを実感しております。

鈴木学長

ダイバーシティ・インクルージョンを推進していくには、意識改革と組織体制の改革のどちらも必要であり、意識を変えることが数値につながる場合と、数値を変えることで意識改革につながる場

合があるため、両面において継続した努力が必要です。また、目指すべきは、性別や人種に関わらず同じように業務を遂行し、評価されていく職場環境づくりであり、業務の効率化という点については、効果的な授業運営体制などを含め、よく検討して取り組んでいきたいと思っております。

秋谷委員長

本学が目指すべき多様性のあるキャンパスを構築するには、教職員だけでなく学生の多様性をどのように担保していくかということも重要であり、その中でジェンダーやSOGI等に関する支援について考えていく必要があります。また、人事部を中心に職員の働き方改革のプロジェクトを立ち上げて組織体制の検討に取り組もうとしております。

富岡センター長

本センターが事業を多角的に実行していく場合、事業内容に沿った教職員の配置等、センターの体制の充実が必要と考えております。

秋谷委員長

本学の規模を考えた時に、余力を持って人事配置していくということは課題であり、スクラップ&ビルドの考えを用いて検討していく必要があると思います。事業内容が多角的であるからこそ、事業ごとに主管部署と協力して遂行していくフレキシブルな体制を構築するとの考えもあるため、体制の在り方について今後もダイバーシティ・インクルージョン推進委員会と本センターで協力して検討していきたいと思っております。

懇談会の最後には、鈴木学長から、これまでの活動推進に対する謝意とともに、本センターが担う意識啓発の役割の重要性が語られ、本学首脳に対しても実効性のある提案、提言をぜひお願いしたい、と今後の本センターへの期待が寄せられました。



「第10回講演会」を開催

2022年6月23日、本センター主催の講演会がオンラインで開催されました。今回は昭和女子大学理事長顧問／トライウォールグループ取締役会長兼CEOの鈴木雄二氏をお招きし、本学教職員および学生、一般の方など学内外から100名が参加しました。

講演では、「体験的ダイバーシティ論～真の多様性を問う～」とのテーマで、ご自身のアメリカ留学や起業家としての体験のなかから学んだダイバーシティの大切さについてお話いただきました。そのうえで、日本を多様化させる具体的提案として、

1. 医療立国論。「力による軍備」を強化するよりも、「平和的な軍備」を備える医療国家として、また教育、文化、研究などに特化した立憲国としての道を目指すべきである。
2. 多様化による人口減少問題の解消。戦争による



避難民を積極的に受け入れることで人口減少の問題解消に寄与できるのではないか。

との2点を示されました。そして最後に、ご自身のダイバーシティ論の総括として、『『出会い』を活かし、失敗を恐れることなく果敢に挑戦、実践していく一人ひとりの行動力で日本を多様性に富んだ真の平和国家にしていくこと』の大切さを語っていただきました。

「学長と若手教員との懇談会」を開催

2022年7月29日、「学長と若手教員との懇談会」が対面／オンラインのハイフレックスで開催され、約20名の若手教員が参加し有意義に行われました。

冒頭、富岡センター長より、今回、初の試みとなった男性教員を含む若手教員との懇談会が開催されることになった経緯や「新グランドデザイン達成に向けてのセンターの取組み」について報告がありました。

続いて小グループに分かれて、「子育てに関わる世代を対象としたワーク&ライフバランス」とのテーマで、参加者間で意見交換を行ったあと、各グループからの報告をもとに、鈴木学長との懇談が行われました。

学長からは、若手教員に対して大学の発展のため

に今後ともさらなるご尽力を賜りたいとの激励とともに、育児休暇が当たり前にとれるような環境を作っていきたいとの話がありました。



参加者からは、「子育てという共通のテーマで、男性教員とも意見交換ができ、また他学部の教員とも共有することができて、非常に有意義でした」等の声が寄せられました。

「第6回学長と女性教員との懇談会」を開催

2023年1月26日に第6回「学長と女性教員との懇談会」が対面で開催され、多くの学部から18名が参加しました。

冒頭、富岡センター長より「新グランドデザイン達成に向けてのセンターの取組み」についての報告、鈴木学長より挨拶がありました。続いて「女性教員のタイムマネジメント」とのテーマで、小グループに分かれて意見交換を行い、学長との懇談が行われました。

小グループでは、①女性教員ならではの細やかな気付きをもって見えない貢献をしている事 ②業績評価における改善点 ③女性が管理職に就くための

基準やプランの可視化 ④業務と家庭生活の両立を目指す中でのタイムマネジメントの困難さと支援の在り方、などについて発言がありました。



学長は、各グループからの報告を受け、「男女共同参画、多様性に配慮した職場環境の実現に向けて、このような機会は有意義であり、課題解決の優先順位を適切に見極めて、改善・改革をしていきたい」と語られました。

つばさ保育所だより ※2022年11月より、つばさ保育所所長に菊池静枝氏が就任されました。

創価大学教職員の皆様をはじめ、地域にお住まいの方々に支えられ、つばさ保育所は2022年9月に開所6周年を迎えました。日頃からのご支援に、心より御礼申し上げます。

つばさ保育所の園児たちは、創価大学の緑豊かなキャンパスをお散歩しながら、学生の皆様、留学生、教職員の方々に温かくお声がけいただき、心も体も伸び伸びと育てております。

開所10周年に向けて、皆様に喜んでいただけるつばさ保育所を目指して、職員一同、更に心を尽くしてまいります。
(所長 菊池 静枝)

0歳から本物に触れる富士美術館鑑賞

『旅路の風景』『ムーミンコミックス展』

『時の蘇生・柿の木プロジェクト』

コロナ禍にあって昨年度まではなかなか富士美術館に行くことが難しかったのですが、今年度は歌川広重などの浮世絵の鑑賞に続き、ムーミンコミックス展を鑑賞。可愛いキャラクターを目の前にして、瞳をキラキラ輝かせていました。また、テラスに咲いていた蓮の花にも興味津々なお宝宝们でした。

また、かつて長崎で被爆した柿の木から生まれた「被爆柿の木2世」の苗木を植える「柿の木プロジェクト」にも参加させていただきました。小さな手でスコップを握り、平和への願いを込めて植樹に携わらせていただき、タイムカプセルを埋めたり、柿の木の葉っぱにメッセージを書いたり、貴重な経験がたくさんできました。



食育体験

「絵本の世界を楽しむ給食」・「郷土料理の給食」

毎月、「絵本の世界を楽しむ給食」と「郷土料理の給食」のメニューをオリジナルで作っています。

絵本が大好きなお宝宝们は『はらぺこあおむし』や『らまめくんのベッド』、『おにはそと』など、季節の行事や食材と併せて、見る絵本と食べる絵本の両方の世界を味わいながら毎回「おいしいね!」と頬張っています。

また、日本全国47都道府県の郷土料理を味わうメニューも人気です。八王子産の野菜を使った八王子ラーメンを筆頭に、熊本県の太平燕や山形県の芋煮、沖縄県のゴーヤーチャンプルーなど、月替わりで旅行気分を味わっています。

ガーデンラボに植えたトマトやピーマン、ほうれん草なども収穫し、育てる喜びと食べる喜びを実際に経験しています。



夏のお楽しみ企画

～サイエンスドーム八王子への遠足～

3年ぶりに、サイエンスドーム八王子へ夏の遠足に出かけました。栄光門から西東京バスに乗って、約10分間のバス旅行! 生まれて初めてバスに乗るお宝宝们もいて、普段は見られない高い視線からの窓景色をととても喜んでいました。サイエンスドームでは、宇宙船をパソコンで操縦してみたり、カラフルなボールが頭上を駆け抜けるのを不思議そうに見たり、静電気を発生させて驚いたり、科学体験がたくさんできました。



駅伝部との交流

史上最強のチームをお宝宝们も全力で応援! キャンパスを颯爽と駆け抜ける駅伝部のお兄さん達と遭遇するたびに、「えきでんぶ、がんばって〜!」と大声援を送っています。箱根駅伝直前の12月末に、手作りうちわと、お米の差し入れを持って、白馬寮に応援に行かせていただきました。園児全員にカレンダーも頂戴し、記念撮影もしていただきました。

総合8位、そして4年連続シード権獲得、誠におめでとうございます! 第100回大会の総合優勝目指して、今年も応援して参ります!



利用者の声 2022年度より長男が0歳児クラスでお世話になっています。キャンパス全体がお庭という恵まれた環境で、優しく頼りになる保育士の先生方と素敵なお友達に囲まれ、毎日楽しく過ごさせて頂き感謝の思いで一杯です。毎日時間に追われる中、親子で通勤通所でき、職場内で安心して子供を預けられることは本当に有難いです。教職員・学生の皆様にも温かく接して頂き、最高の教育環境で子供が成長していることを嬉しく思っています。
(創価大学経済学部 安武妙子 准教授)

「女性教員サロン」を開催

2022年6月3日および11月16日に「女性教員サロン」が開催されました。

春学期のサロンは対面で行い、「Improving Gender Equity in Higher Education」（「高等教育における男女共同参画の推進」）とのテーマについて、事前に配布した記事（Nature 誌掲載「To advance equality for women, use the evidence」 「女性のための平等を進めるためにエビデンスを活用しよう」）に基づいて、学部・所属を超えた9名の女性教職員が活発なディスカッションを行いました。

また、秋学期のサロンはオンラインで行い、8名の女性教員が参加し、「The myth of bringing your full, authentic self to work」のテーマについて、事前に案内されたTED Talk の動画をベースにディスカッションを行いました。企業や組織内で無意識に差別が起きていることについて、差別された側が認識できていないケースがあるのではないかとこの視点から、気づきから改革への行動が求められるとのことで、本学でも全員が意識改革し声を発していくことの重要性について有意義な語り合いが行われました。英語でのディスカッションを中心にチャット機能を利用して通訳するなど工夫して開催しました。

「オープンカフェ」を開催

●第15回オープンカフェ

第15回は、本センター員で法科大学院准教授の岡本梢先生にご担当いただきました。先生は、司法試験に向けて必死に勉強をしたことがその後の留学や研究にも活きたとして、学生時代必死に勉学に打ち込むことの重要性を語ってくださいました。参加者からは、「キャリアを考える上でとても勉強になった」との感想が寄せられました。

●第16回オープンカフェ

第16回は、本センター員で糖鎖生命システム融合研究所副所長・教授である木下聖子先生にご担当いただきました。先生は、海外で生まれ育ったこと、台湾での生活、そして来日してからの家庭と研究・教育の両立についての苦勞を語られ、一つのキャリアパスの形を紹介してくださいました。その後、小グループに分かれて有意義なディスカッションが行われました。



「第5回ランチタイムミーティング」を開催

第5回ランチタイムミーティングが2022年10月21日に開催されました。教職員22名が参加し、Zoomのオンライン形式で、「育児体験を通じた情報交換会」を行いました。人事部の竹谷副主任より育児・介護休業法の改正点、片岡優華センター員（看護学部講師）より、育児と仕事・研究に関する体験談を紹介し、参加者と日々の悩みや工夫等を共有しました。参加者からは、「所属を超えた交流ができて良かった」「子育て経験を共有できて有意義であった」等の感想や、「ワークライフバランスの意識を高めることの必要性」「勤務形態等について、柔軟な働き方が認められると両立しやすい」等の意見が寄せられました。



「女子大学院生サロン」を開催

今年度からの新たな取り組みとして、本センター員である糖鎖生命システム融合研究所・木下教授、法科大学院・岡本准教授が担当し、女子大学院生サロンを開催しました。2022年7月15日に開催された第1回目では、7名の院生が参加し、自身の研究分野を紹介した上で、院生生活で困っていることを中心にディスカッションを行いました。第2回目は、2023年1月23日に開催され、4名の院生が参加しました。「女子大学院生のキャリアイメージ」をテーマに、木下・岡本両センター員より、自己のキャリア形成について紹介があり、女子大学院生の抱える問題点等について活発に意見交換を行いました。参加者からは、「他分野の院生と交流できて良かった」「自分の考えが整理できた」「また開催してほしい」等の声が寄せられました。



「産後パパ育休」の創設と「育児休業の分割取得が可能に」

育児・介護休業法が改正され、男性の育児休業取得促進のために2022年10月から男性の「産後パパ育休（出生時育児休業）」が創設されました。産後パパ育休とは、子どもの出生後8週間以内であれば4週間を限度に取得（2回に分割取得可）でき、従来の育児休業とは別に取得可能な新しい制度です。

また、育児休業については、これまで分割して取得することは原則不可でしたが、法改正により分割して2回取得が可能になりました。

今回の法改正は、夫婦が育休を交代して取得できる回数が増え、男女ともに家事と仕事を両立しやすくするためのものです。まだまだ男性が一度に長期の休業は取得しづら

ケースもあり、新制度により女性に偏りがちな育児や家事を見直し、女性の就業機会の拡大、男女の雇用格差の改善につながることで期待されています。

その他、今回の法改正では、育児休業等を理由とする不利益取り扱いの禁止やハラスメント防止として、事業主に対して、上司・同僚による育児休業等の制度又は措置の申出・利用に関する言動によるハラスメントを防止する措置が義務付けられました。教職員の皆さまが育児休業等を取得しやすい雇用環境の整備にこれからも努めてまいります。

取得方法や制度について詳しくは人事部まで遠慮なくお問い合わせください。

ワーク・ライフ・バランス相談窓口

ダイバーシティ・インクルージョン推進センターでは、教職員が教育・研究活動や業務に安心して取り組めるよう、相談窓口を設置しています。

仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・育児・介護などライフイベントに関すること等、お気軽にご相談ください。

事前予約制のため、相談を希望される方は、学内ポータルサイトよりお申し込みください。安心して相談していただけるよう、プライバシーの保護には万全を期しています。

また、オンラインによる相談も可能となり、利用者からは「より相談しやすくなった」との声が寄せられています。

《お申し込み方法（事前予約制）》

学内ポータルサイト > ツール・リンク集 > 学内サイト > ワーク・ライフ・バランス相談窓口の申込フォームに必要事項を入力しお申し込みください。

編集・発行 創価大学ダイバーシティ・インクルージョン推進センター

センター長 富岡比呂子

センター員 今泉 幸子／植田 由香／大森 英未／岡本 梢／片岡 優華／勝本美智子／
木下 聖子／小林 孝次／近藤 重弘／中村 玲子／西山 道子／御崎 由久／
村上 信明／森 富士子

発行日 2023年2月27日

E-mail sankaku-center@soka.ac.jp ホームページ <https://www.soka.ac.jp/particip/>



QRコードはこちら